

「空を見上げて」作詞者:3年1組 細江侑衣さんからのコメント

[20:37] 長崎南高等学校_生徒 2019031

〈作詞をする時に意識したこと〉

- ・前向きな歌詞でありながら、辛い思いをして挫けそうになっている人にも寄り添う、優しい歌詞であること
- ・時が経っても変わらない、長崎南高校から見える自然を取り入れること
- ・曲に合っていて、歌いやすいこと
- ・初めて聴いた人が目を閉じて聴いても、言葉の意味や漢字を思い浮かべることができる歌詞であること

〈メッセージ〉

この歌詞は、この学校に通い、学び、沢山の思い出と歴史を刻んだ人、飛び立っていく全ての人々の幸せを願って書きました。

困難にぶつかった時に、嫌なことや不可能なことと考えるのではなく、夢を叶えるための過程として捉え、真摯に向き合い乗り越えていく、それが大切なことだと思います。

そういうことを積み重ねていくことができる人にこそ、チャンスは訪れるのだと信じて生きてきました。

だけど、努力しても努力しても、報われなくて、救われなくて、苦しくなって。

頑張る意味がわからなくなるような日が、私には沢山ありました。

足掻いて、もがいて、それでも届かない。

他人や自分の周りの環境のせいにしたくなったり、自分の才能の無さに肩を落としたり、世界って不平等だと嘆いてみたり。

実際、残念なことに、努力しても必ずしも思い描いた通りの形で夢や理想が実現するとは限りません。

努力したから夢が叶った。

そう言える人は、本当はとても少ないのではないのでしょうか。

いつかの私のように、報われなくて辛くてどうしようもなくなっているような人にこそ響くものを創ろうと心に決めました。

頑張ることは無意味じゃない。

この学校の校訓にあるように、情熱を持ち、どんな困難にも負けず、諦めなければ、必ず得るものがあると伝えたくて、この歌詞を書きました。

綺麗事だと言って笑われるかも知れません。

実際、そうなのかも知れませんが、書けば書くほど、自分が未熟であるということを思い知らされました。

私の拙い歌詞は、大津くんの作ったメロディーがあってからこそ人前に晒せるものになっているのだと思います。

彼は、人の悲しみに寄り添える力を持っています。

それは、音楽にも反映されていて、完成版の曲を聴いた時には、なんて優しく温かい曲なのだろうと感動しました。

また、この歌詞は、約1年かけて書き上げました。その間に、学校生活でいろんな辛いことや悲しいことがあった中で私を支え、励ましてくれた仲間のお陰で、私はそれらを乗り越えることができました。

その経験が無ければ、それまで仲間の大切さを知らなかった私に、この歌詞を書くことはできなかったでしょう。

私が所属していた吹奏楽部の顧問であり、作詞者に任命して下さった辻先生をはじめとする、今まで出会ってきた人々や出来事、そんな、長崎南高校には感謝の気持ちでいっぱいです。

最後に、この歌が誰かの心に灯りを灯せる、希望の歌で在れるようにと願います。